



# 信楽学園の3年間とその後

## ～生活・活動・支援～

# 1年目

共同生活を通じて、協力する力や人間関係の構築を図る。

●入園当初は学園での生活に慣れることを目的に生活を行う。

●慣れてくると生活リズムを整えること、1日3食の食事をしっかり摂ること、8時間程度の睡眠をすることを意識して生活をする。

【工場】園内にある工場での作業に毎日参加することで、働き続ける力・働き続けるための体力を身につける。  
【SL】工場作業だけではなく、月2回学習の場を通して、社会的スキルを身につける。

【生活】学園の生活に慣れてもらうために、月に1回程度の面談を通じ、児童らの気持ちを汲み取っていく。

生活の基盤を整えるために、職員と一緒に日常生活の習慣を身につけられるようにする。

【日中活動】各児童がどういった特性があるのか、何が合っているのかを考える。その中で、学園だからといつた課題なのか・地域だからといつた課題なのかという見極めを行う。

児童が「頑張ったらできる」のか「支援があればできる」のか「できない」のかという3つの視点を持ち、その視点を持ちながら、児童と関わる。

日中活動

職員の支援

### 【工場作業について】

かわらけの成型やかわらけなめし、窯出しや釉薬かけなどを行っていた。ろくろなどの機械が回っているのが好きだったから、作業は楽しかった。作った製品をもらえるのが嬉しかった。自分の作った製品をもらえると作ったという実感を持つことが出来た。

作業が上手く出来ないと落ち込んでしまい、立ち直れなかった。その時は寮に戻り、寝て切り替えをしていた。

### 【寮生活について】

特に大きな問題はなかったが、帰省した後は、学園に行きたくないと何度も思った。生活担当は、居た方がいい。いないと寂しい。

### 【工場作業について】

作ることは楽しかった。考えながら何かを作ることが好き。けど、箸置きなどの同じ作業を繰り返して行うことは嫌だった。

### 【寮生活について】

学園に来たはいいけど、勝手に学園外を出入りすることが出来ない、周りに何もなかったのが嫌だった。

# 卒園後

就職

●就職先は、障害者雇用で一般企業、障害福祉サービス（生活介護、就労継続支援A型及びB型事業所、就労移行支援事業所）が主になってくる。

●卒園式までに進路が決まらなければ、自分のペースで特性にあった進路先を本人、家族、関係機関などで話し合って探していく。

●卒園後、連絡がない児童もいるが、困った時や悩んだ時に電話や学園に来園して相談する。

職員の支援

●卒園後5年間のアフターフォローの支援を行ってはいるが、学園のフォローアップのフェードアウトするタイミングは慎重に行う。

●卒園後、連絡のない児童は、どうしているのかと心配になる。時間が経ち孤立している事例もなかにはあり、その場合は関係機関に連絡し、卒園児童と関係機関との関係を再構築することが必要になってくる。

# 2年目

生活

起床時間や身支度の時間、掃除にかかる時間など自分で1日のスケジュールを組み立てる力を身につける。

●日常生活（入浴をする・洗濯をする・歯磨きをする等）の習慣を身につける。

●自分で朝起床することができる。

●「国内作業」で身につけた働くための基礎的な能力（長時間作業を継続できるか、挨拶、作業の進め方など）を活かして、信楽町内の企業で職業体験を経験するための実習を行う。

●「継続する力」を身につけるために1つの企業先で長く働き続けるための練習を行う。

【生活】月に1回程度の面談を継続し、児童らの気持ちを汲み取っていく。

職員と一緒に実習を行ってきた日常生活の習慣を、自分一人で取り組んでいけるよう支援する。

【町内実習】慣れ親しんだ信楽学園内の環境から、信楽町内にある企業へ作業の環境を変えることで児童に表れる変化をアセスメントする。

アセスメントから得られた結果を地域移行支援に繋げる役割がある。

卒園生  
Yくん

### 【町内実習について】

作業での失敗したことや人間関係などでしんどい気持ちはあったが、実習を休まずに行っていた。休みたいという気持ちはあったけど、休むという考えはなかった。実習を通して、人が少なくて落ちていた場所の方が自分に合っているということが分かった。

### 【町内実習について】

初めての実習は、どうしたら良いか分からなかった。全体を通して、作業面で苦労をしたことがなかった。

卒園生  
Yくん

### 【卒園後、働いてみて】

服薬などで遅刻などする時もあったけど、4年間働き続けることが出来ている。製菓工場での時給も上がって嬉しい反面、人間関係などしんどく感じる時もある。しかしお菓子を安く買えるので、しんどいことがあっても頑張れる。働いたお金で、休みの日にドライブをしたり、旅行をしたり、好きな物を買うなどをしている。また、母に生活費を渡している。しんどいことは、働き暮らし応援センターに相談することが出来ている。

### 【後輩園生に向けて】

継続して働くためには、1つ目は我慢するための体力が必要だと思う。2つ目は休みたいと思った時は、無理せずに休む。けど「来てください」と言われたら行くこと。3つ目は働くための目標を見つけること。「お金が入ったら何がしたいのか」を考え、それを実現させること。4つ目は、相談することも大切。自分はしんどい時などは働き暮らし応援センターや母に相談をしている。不幸なことがあったら、1人で解決をしないといけない時もあるのが、大変だなと思う。

# 3年目

生活

卒園後、地域に戻った時にどのような生活を送りたいのかという具体的なことを自分でイメージをする力を身につける。

●社会に出て、社会人として生活するにあたって、生きるためにの楽しみなど、今後人生を送る上でエネルギーをしっかりとつけてもらおう。

●保護者・信楽学園・本人と相談しながら、どういう進路先が良いのかを決定をする。最後は本人が決める。

●進路ガイダンス：学習会を通して、就労するにあたっての基本的な就労の種類の説明や地域の関係機関の紹介、福祉サービス、お金の仕組みなど、社会に出るにあたっての学習を行う。

●企業や就労移行支援事業所の実習を体験する。

●ハローワークでの求職登録やケース会議を行う。

【生活】児童たちの「自立したい」という気持ちをどのように育てていくのかを考えていくために、職員からやりたいことを引き出していくアクションを起こしていく。

「こうしたい！」と目的を持った児童の力はすごく、いろんなことを吸収していく。

そこに何かアプローチをするのではなく、どういう情報を児童に提供をしていかを心がける。

【進路活動について】就職するための支援を行うのではなく、児童が長く働き続けられるための支援をしていく。

児童自身がやりたいことを考えて、自立したい気持ちをどのように育てていくかを考えながら支援をする。

児童の地域移行を行う中で、反対意見というのも必ずあり、そこをどう折り合いをつけていくかというのを関係機関や学園職員と話し合っている。

### 【進路活動について】

何がしたいのかが分からなかった。接客がしたい気持ちがあったが、何の種類があるのかがわからなかった。

卒園生  
Hさん

卒園生  
Yくん

### 【進路活動について】

「死ぬまで働けるのか」ということで悩んでばかりだった。いろんな企業に実習を行ったが、感覚的な臭いや吐き気、胃もたれ、集中できないなどと、ここで働くのはしんどいなと思う企業もあった。3年目の1月でも進路の見通しが無く、焦る気持ちでいっぱいだった。その時期に、生活担当から白紙の紙を渡され、好きな物や路線図などを書いた中心にあったのが、「お菓子」や「ケーキ」だった。1年目のころに「パティシエになりたい思いがあり、お菓子の会社で働きたいという思いがあることに気が付いた。その後タイミング良く、製菓工場の仕事を紹介があった。2週間の実習や面接を受け、卒園式後の3月27日に製菓工場での就職が決まった。

卒園生  
Hさん

### 【卒園後（就労移行支援事業所）について】

2年間は就労移行支援事業所にいたが「早く働きたい」と思いが強くなって、毎日ハローワークに自分から行っていた。そして、接客業の仕事（パート）に就くことが出来た。

接客業の仕事では作業の指示書や発注などの責任のある仕事をしている。責任感がある仕事はやりがいがある。パートの試験も受けた。障害者雇用枠ではあったが、ちゃんと仕事の評価をしてくれていた。

働いている中で嫌なことは、お客様とのやり取りでイララすることもあるけど、「いらっしゃいませ」と大きな声で言って発散している。良いことは、他のパートさんや主任なども話をたくさん聞いてくれる良い人ばかりで良い職場。

今でも自分は「正社員になりたい」と思っており、現在の仕事のままでは正社員にはなれないと思った。この思いをたくさんの方に相談しながら、職場の主任にも話し「ステップアップしていいのでは」と応援してくれた。ハローワークの人にも相談し「一般の正社員（クローズ就労）に挑戦してもいいのではないか」と言ってくれた。だから、仕事を辞めようと思う。

### 【卒園後の生活について】

卒園後はグループホームに入り、2021年から念願の1人暮らしを始めた。いざ一人になると寂しい。気持ちが暗くなったりを感じる。その反面、いろんな人と遊び約束をして遊びの楽しい。・家事も「これせなあかんな…」とは思うけど、めんどくさいが勝って後回しになる。しかし、これでいいのかなと思うようになった。

### 【手帳の持所・障害受容について】

・検査をして、手帳をもらった時は「嫌だった」。そのため、手帳を持っているということは今でも躊躇している。  
・障がいがある人が嫌というわけではなく、自分自身が受け入れることが出来ない。しかし、手帳を持ったことで嫌な思いをしたことはなかった。  
・就職先で「手帳を持っているように見えない」と言わされたことは嬉しかった。  
・手帳を持っていることを知っている人からすると、ちょっと自分が失敗をしたことで、「やっぱり失敗するんだ」という目で見られることが嫌。だから、給料をたくさんもらえるようになら手帳の更新はしたくないと思っている。

# 外部から見た信楽学園



杉森 正さん（元学園職員）

昭和49年信楽学園に入職し、5年間児童指導員として勤務。その後福祉事務所での勤務を経て、昭和57年より再度信楽学園で7年間勤務する。現在は、社会福祉法人甲賀学園の理事をはじめ、要保護児童に対する各協議会等でスーパーバイザーなどを務められ活躍されている。今回は通算12年間にわたる信楽学園での勤務を振り返ってもらった。

**福祉を学んできていないので、柔軟な発想ができた。  
自分と子どもと一緒に考える。そして関係性をつくる。**

## 「資格もなく学園での勤務」

大学（文学部）を出て、子ども福祉のベースもなく、どう対応していいかわからなかった。入職して2年目に子どもとソフトボールを始めた。当時はルールを理解していない子どももいて、今では駄目だが、声を荒げて指導したりしていたが、子どもたちは不平も言わずにいてくれた。練習もしっかりとやっていた。ノックを頑張って受け過ぎて、突き指をする子どもが出ると、工場での作業に支障が出て、職業指導員からよく怒られた。しかしその甲斐もあって、出場した大会では優勝や準優勝もした。学校などではあまり評価されてこなかった子どもたちは、その結果に大いに喜んでいた。

## 「信楽中学校との交流」

当時は今の体育馆の場所に信楽中学校の神山学級があり、学園に在籍している中学生はそこで授業を受けていた。本校にはなかなか関われなかっただ子もたちだったが、ソフトボールを通して自信を持てるようになり、やってやろうかという雰囲気になっていた。

当時の養護学校では社会参加の機会は少なく、そのため学園が脚光を浴びた。入園についても争奪戦だった。東大に入るよりも難しかった（笑）。今は高等養護学校なども出来て変わったが…。



## 「地域移行について」

昭和57年は「障害者の社会参加と完全平等」を謳った国際障害者年で、学園の30周年でもあった。重度の子どもも増えてきたことで、在籍年数も長くなっている、創設当初の理念と違うように感じ、学園の有り方の検討を行った。「3年間のトレーニングを経て、社会参加をさせよう」と。

行き場のない重度の子どもの移行支援が辛かった。学園を退所して地元の市町に帰る際に、市町とうまく連携が取れなかった。まだまだ地域福祉の根本が整備されていなかった。

## 「職業訓練について」

職業訓練はハードだった。企業に近い形態で17時まで行い、ノルマもあり、残業もしていた。緊張感があり、職員も子どもも真剣そのものだった。もともと職人の職員がいたために子どもたちにも厳しく指導していた。

## 「登山活動について」

社会に出た時の余暇の過ごし方には課題があった。昭和61年、余暇の過ごし方として登山活動が開始された。軽度の子どもが多かったこともあり、反対意見もあったが、実施された。知らない山は危険もあるため、整備されている北アルプスに行くこととなる。4月から登山訓練を開始し、月～金曜日は工場作業を行い、土日に登山訓練を行った。レンガなどをリュックに詰め込んでの歩行訓練など。ザックは予算の関係から手作りだった。登山はリタイア出来ないと、社会に出てからも同じだということで頑張った。保護者からも誰しもが経験できたことに感謝された。

登山道で周囲から声をかけてもらえることもうれしく喜んでいた。みんなしんどい思いをしながらも達成したことを喜んでいた。

## 「寮での生活について」

テレビを見たり、音楽セッションを聞いたり、オセロや将棋などをしていた。週刊誌を隠し持っている子もいた。21:00に宿直室へ来て、宿直の職員と一緒に、おやつ倉庫からキャラメルを持ち出すなど悪さをするのも楽しみの一つだった。そんなことをしながら関係づくりをしていた。

## フレッシュさんの宝もの



堀 茉那美さん  
栄養士



大学卒業後、東京都世田谷区の病院で勤務していました。コロナ禍ということもあり、実家が恋しくなり、滋賀県に帰ってきました。甲賀市の学校給食センターで勤務後、信楽学園にきました。子どもたちとお話しするのがとても大好きで、毎日楽しく働いています。私の宝物は、沢山の宝物が入った缶ケースです。大切な人からの手紙や手作りのお守り、昔の紙幣や硬貨が入っています。



平川範治さん  
児童支援員

10月より入職しました平川範治です。出身は福岡県で、前職は高校教師です。

さて私の宝物ですが、やはり高校教師時代の教え子達です。勿論、信楽学園の児童の皆さん方も私にとりましては、かけがえのない尊い存在です。微力ではありますが、宜しくお願ひします。（3月末に退職されることになりました）

はじめまして、村中研治です。

前職では和食料理を中心に、居酒屋、ホテル、ファミリーレストラン等で勤務していました。食べる人が喜んでくれるように、安全で、見栄えも良く、おいしい料理を作っていくたいと思っています。

私の宝物は「ホンダ PCX125」です。見た目も良いのですが、燃費リッター48キロ、シート下BOXに買い物カゴ1個分入るので、雪の日以外は毎日乗っています。



むらなか けんじ  
村中研治さん  
調理師



## 編集後記

信 楽学園に配属されてから3年が経ちました。ということは、児童の1クールを共に過ごさせて頂いたということになります。

3年前に入園してきた児童が、3年後の現在には就労が決まり、地域で働き暮らしている姿を見るととても嬉しい気持ちになります。児童1人1人の成長の仕方やスピードは違います。また様々な壁に当たりながら絶えず折しながらも学園の3年間で成長し、卒園していく児童を誇らしく感じます。

これからも児童が地域で働き続ける・生活し続けられるための支援を行ってまいります。70周年後も成長していく信楽学園を見て頂ければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、今回の表紙の写真は2022年12月24.25日でクリスマス会を実施した様子です。今回のクリスマス会は、保護者会からボードゲームやカードゲームのプレゼント、各生活担当から児童の名前の刺繡をしたハンドタオル・メッセージカードのプレゼントがありました。児童たちにとって、良い思い出の一つになってもらえたと思います。【天羽 結香】



## 信楽学園 ニューズレター Vol.16

滋賀県立 信楽学園

〒529-1812 滋賀県甲賀市信楽町神山470  
☎0748-82-0051 / email : shigarakigakuen@glow.or.jp

編集・発行

社会福祉法人 グロー

～生きることが光になる～  
www.glow.or.jp



こちらからバックナンバーも読めます▶